

ちょんまげ隊の被災地報告会

～被災地支援から得た学び～

東北支援活動のはじまり

2011年3月11日の東日本大震災発生を受け、各被災地での支援活動を開始。活動初期は支援物資搬送、避難所への洗濯機設置や炊き出しなどの物資面のサポートが多かった。
半年後から、被災地の小中学生をサッカーの試合や水族館に招待したり、避難所や仮設住宅で音楽会を開いたり、またプロのサッカーコーチやブラインドサッカー日本代表選手などに協力を仰いでサッカー教室を行うなど、子供たちの心のケアなど精神的支援に活動が変化していった。
【この指止まれ方式】大きな団体を維持せず、その都度募集・解散するユニット形式で、活動している。



被災地報告会とは？

現在までに200回以上行われ、その約半分は海外で開催。
自ら撮った映像をメインに、ツン隊長の解説をはさみながら進行する。
【防災】映像を通してTV番組が伝えきれない状況を報告し、震災に“備える”を考える
【ボランティア】4年経った“今”を伝える事によって、今できる支援・ヒントを提供する
【2つの感謝】今の恵まれた状況に感謝してますか？の問いと、被災地からの感謝を世界に伝える



報告会の形式

- ・震災の約1週間後から現地へ出向いて撮影した200本以上の映像（被災者の方が撮った津波の映像、津波の爪痕、避難所の様子、子ども達がどんな生活を送っているか、70回に及ぶ様々なボランティアのスタイル、等）から、みなさんに合った映像を選択。
- ・時間は、60分～120分（頂ける時間により内容を変更）
- ・持参するノートパソコンをプロジェクターやTVを繋げて映像を流し、解説をはさみながら進行する。
- ・終了後、ディスカッションや質疑応答ができると尚良し。



【必要なもの】

- 1.プロジェクターor大型TV
- 2.PCとつなぐコード
- 3.PCから音を出すスピーカー
- 4.マイク
- 5.電源と延長コード
- 6.会場の確保
- 7.告知と集客(これが一番大事！)
- 8.日本語スピーチの為、現地語の場合は通訳(要相談)

「ちょんまげ隊」とは？

サッカー日本代表をゴール裏で応援するグループの1つ。
応援に際して、ちょんまげのカツラに青い甲冑を着用するという独特のスタイルで臨むことから「ちょんまげ隊」と呼ばれるようになる。
「日本代表をみんなで楽しく！熱く！応援する！」ことがグループのモットーで、自分たちだけでなく周りの一般サポーターも巻き込んで世界50都市以上で応援している。



《ナビゲーター》ツノダヒロカズ 略歴



1962年11月18日東京生まれ。武蔵大学経済学部卒業後、広告代理店に勤務。
のちに家業の靴店を継ぎ、現在は千葉県内で経営。PTA副会長も務める一児の父である。
ドーハの悲劇以降サッカー日本代表に興味を持つ。大学時代に世界50か国以上旅をした経験から「日本人のアイデンティティは何か？」を考え、北京オリンピック以降、サムライ姿（ちょんまげ&甲冑）で世界中を駆け回る有名サポーター。サッカーのネットワークを生かし、世界中に仲間がいることが、最大の特徴。
愛称は「ツン隊長」で親しまれている。

「被災地報告会を通して今子どもたちに伝えたい事」

高柳西小学校PTA副会長 角田寛和

2011年3月に東北で震災が起きました。その時から「ちょんまげ支援隊」として被災地へ50回ほど支援に行き、撮影した映像を基に「被災地報告会」を世界中で160回ほど行っています。国内では大学や小学校に、海外では日本人会や日本人学校に行きます。親や先生とは違った視点で映像を通して伝えたい事があります。

■津波で壊滅した地域とそうでない地域の境目がほんの数メートルだという事。警報がちゃんと出て避難すれば助かる命は沢山あったという事。いずれ来るかもしれない災害のためにも「忘れない」という事。

■2011年7月に石巻の牡鹿半島に行った時の話です。震災から4か月たつのに復興が進まず支援も少ないと聞き、小学校3校に沢山のお菓子を持って行きました。そこで見た風景が今も忘れられません。周りが手つかずの瓦礫、「同じ日本とは思えない」と憤りさえ感じる状況の中、先生方も部外者の僕らを温かく受け入れて下さり、僕らは子どもたち一人一人にお菓子を渡しました。半島には店が1軒しかなく、交通網の復旧も遅れ、その不便さから転校する児童もあり、生徒数は半分以下。全校生徒で家が残っているのは当時5名。それでも机の上には教科書、ノートが開かれ、しっかり勉強し、先生方はユーモアを交え子どもたちと接し、教室には笑い声が響いていました。大変な環境にも関わらず子どもたちからの「ありがとうございます」に涙が止まりませんでした。この年頂いた沢山の「ありがとうございます」が今も僕らが支援を継続する理由だと思います。

報告会では、被災地の子どもたちの頑張る姿を通して、勉強できる事、スポーツを楽しむ事、食卓に座ると夕食が並ぶ事など「当たり前的事ではないんです」「感謝してますか？」と学生の皆さんに問いかけています。被災地東北の当時の状況、今の姿から学ぶ事は沢山あります。これからも皆さんに伝えていきたいです。



過去の実績

母校武蔵大学、北海道大学、東北大学、仙台白百合女子大学、東京大学、慶応大学、早稲田大学、同志社大学、京都産業大学、大阪大学、神戸大学、立命館大学、名古屋大学、香川大学、愛媛大学、松山大学、つげの高校、山形県最上町立向町小学校、台北、パース、ドーハ、アムステルダム、サンパウロ、リオデジャネイロ、ブエノスアイレスなどの各日本人学校、オマーン補習校など25都道府県、15か国以上、国内外合わせて210回(うち海外が100回以上)開催



カンボジア絆フェスティバル

←サンパウロ日本人学校



参加された方の感想

カタール在住



報告会の冒頭でツン隊長は「これは他人事じゃないんだ」と言っていたが、最初来たときは、地震の時に日本にいなかったこともあって正直他人事と思っていた部分もあった。でも、報告会を聞いているうちにどんどん他人事とは思えなくなり、東北にいる親戚のことがフラッシュバックしてきた。苦しんでいるのは決して他人じゃなく、自分に近い人達なんだと感じるようになった。

名古屋在住

限られた時間で初対面の人の心を掴むのは難しい...でも皆どこかで気にしてる東北支援...TVニュースが減った今、更にツンさんの報告会は地道で貴重だと思います。何かしたいけど、行きたくてその手段がわからなかったボランティア...その距離を縮めてくれたのが、ツンさんでした！



ちょんまげ隊の活動が、新聞に取り上げられました！その一部をご紹介します。

↓ 信濃毎日新聞 2012年5月12日付

侍姿のサッカー代表サポーター 震災支援松本で報告

山雅サポーターが協力

サッカー日本代表を侍姿でついで松本市で報告した。報
 應援している角田寛和さん。告会は「リーグ2部（J2）
 （49）千原県相市川が4月30日の松本山雅FCサポーターと
 日後、東日本大震災で被災し、約1年前に知り合った様で実
 たる宮城県・牡鹿半島の小中、現同サポーターが協力を
 生をり、その試合を招待する。会場で、角田さんらの活動
 の動画を上映、後、靴店を営む角

田さんは昨年3月、支援物資として靴を宮城県内に贈った。以降、宮城県や石巻市内を侍姿で訪れ、日本代表サポーターの仲間と一緒に避難所に洗濯機を、子どもたちなどに贈っている。

昨年12月にはJ1のベガルタ仙台（宮城県）の公式戦に牡鹿半島の小中学生と保護者サポーターを招待した。同クラブサポーターらしく呼び掛け、義援金やタオルマフラーなどを寄せてもらった。映像で初めは笑顔が少なかった子どもたちも試合中に頭上からタオルマフラーを回して喜んでくれた。角田さんは「お金を掛けたなくてもサッカーのつながりで支援をするには、集まった松本山雅サポーターら30人余りが角田さんに義援金を渡した。

↓ 朝日新聞宮城 2014年6月5日付

夢と感謝を胸に ブラジルW杯へ

社鹿中の4人 日本サポーターが「招待」

東日本大震災を被災地支援を続けてきた松本市は、サッカーのワールドカップ（W杯）ブラジルの本拠地地帯（福島の仙台）に、サッカーの日本代表の試合を見学し、被災地の現状を視察する。4人は宮城県・牡鹿半島の被災地支援を続けている「ちょんまげ隊」の一員で、被災地の現状を視察する。4人は宮城県・牡鹿半島の被災地支援を続けている「ちょんまげ隊」の一員で、被災地の現状を視察する。

東日本大震災を被災地支援を続けてきた松本市は、サッカーのワールドカップ（W杯）ブラジルの本拠地地帯（福島の仙台）に、サッカーの日本代表の試合を見学し、被災地の現状を視察する。4人は宮城県・牡鹿半島の被災地支援を続けている「ちょんまげ隊」の一員で、被災地の現状を視察する。

東日本大震災を被災地支援を続けてきた松本市は、サッカーのワールドカップ（W杯）ブラジルの本拠地地帯（福島の仙台）に、サッカーの日本代表の試合を見学し、被災地の現状を視察する。4人は宮城県・牡鹿半島の被災地支援を続けている「ちょんまげ隊」の一員で、被災地の現状を視察する。

↓ 毎日新聞 2012年1月5日付

一人一人に寄り添い

柏の「ちょんまげ隊長」

心を太陽を持って
「サッカーの力」牡鹿の子らに

一人一人に寄り添い、心を太陽を持って、サッカーの力で牡鹿の子らに。心を太陽を持って、サッカーの力で牡鹿の子らに。

一人一人に寄り添い、心を太陽を持って、サッカーの力で牡鹿の子らに。心を太陽を持って、サッカーの力で牡鹿の子らに。

一人一人に寄り添い、心を太陽を持って、サッカーの力で牡鹿の子らに。心を太陽を持って、サッカーの力で牡鹿の子らに。

↓ じゃかるた新聞 2014年11月5日付

The Daily Jakarta

「東北に代わって感謝を」

語り部の角田さん、被災地報告

世界で東日本大震災の被災地を報告している。東北の人に代わって感謝を語り、語り部の角田さん、被災地報告。

世界で東日本大震災の被災地を報告している。東北の人に代わって感謝を語り、語り部の角田さん、被災地報告。

世界で東日本大震災の被災地を報告している。東北の人に代わって感謝を語り、語り部の角田さん、被災地報告。

世界で東日本大震災の被災地を報告している。東北の人に代わって感謝を語り、語り部の角田さん、被災地報告。

自分たちが笑顔で活動することで、笑顔の輪が広がってほしい。

[Mail] cmage2011@yahoo.co.jp
 [Facebook site] http://www.facebook.com/smile4nippon

